

# 国立国会図書館 調査及び立法考査局

Research and Legislative Reference Bureau  
National Diet Library

論題 Title	標題紙・はしがき
他言語論題 Title in other language	Preface
著者／所属 Author(s)	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構
書名 Title of Book	データ活用社会を支えるインフラ：科学技術に関する調査 プロジェクト報告書 (Infrastructure for Data-Driven Society)
シリーズ Series	調査資料 2017-6 (Research Materials 2017-6)
編集 Editor	国立国会図書館 調査及び立法考査局
発行 Publisher	国立国会図書館
刊行日 Issue Date	2018-03-30
ページ Pages	—
ISBN	978-4-87582-815-0
本文の言語 Language	日本語 (Japanese)
キーワード keywords	—
摘要 Abstract	科学技術に関する調査プロジェクト「データ活用社会を支えるインフラ」 標題紙・はしがき

調査報告書『データ活用社会を支えるインフラ』は、国立国会図書館調査及び立法考査局による科学技術に関する調査プロジェクトの一環として、外部に委託し実施した調査研究の成果報告書です。掲載した論文等は、全て外部調査機関及び外部有識者によるものです。国立国会図書館の見解を示すものではありません。

科学技術に関する調査プロジェクト 2017 報告書

# データ活用社会を支えるインフラ



2018年3月

国立国会図書館  
調査及び立法考査局

調査報告書『データ活用社会を支えるインフラ』は、国立国会図書館調査及び立法考査局による科学技術に関する調査プロジェクトの一環として、外部に委託し実施した調査研究の成果報告書です。掲載した論文等は、全て外部調査機関及び外部有識者によるものです。国立国会図書館の見解を示すものではありません。

# 科学技術に関する調査プロジェクト 2017 報告書

## データ活用社会を支えるインフラ

情報通信技術の目覚ましい進展に伴い、多様かつ大量のデータを取得・処理することが可能になり、さらにインターネットを介してこれらのデータを瞬時にやり取りし、従来は考えられなかった事象の関連を発見したり、新たな製品・サービスを生み出したりすることが容易にできるようになってきている。これによって経済・政治・教育・科学・生活・文化など社会のあらゆる局面で大きな変化が生まれており、データの有効活用は産業構造や社会そのものを根底から変革する可能性を秘めている。

このような動向は、国際的にも大きな潮流となっており、国家の競争力に直結するものであるため、データの有効活用は各国ともに国政の重要課題となっている。国としての政策を立案する上で、それを支えるインフラの現状と課題を、他国の現状も踏まえて把握しておくことは極めて重要である。本調査報告書は、このような観点から、データ有効活用に関する科学技術の研究動向、データの有効活用が社会、経済、法制度にもたらす影響などについて、できる限り偏りなく正確かつ最新の状況を調査し、関係者及び一般国民に的確な情報を提供することを目的としている。

本調査においては、データを有効活用することにより生まれてくる新たな社会を「データ活用社会」と位置付け、それを支えるインフラの現状と課題について調査・分析を行う。本調査における「インフラ」の概念は、必ずしも社会システムを構成するハードウェア・ソフトウェアといった狭義の意味にとどまらず、政策・制度・人材などを含む広義の意味を含んでいる。

本報告書は4部からなる。まず第1部「データ活用技術・データの扱い方（統計学・情報学等）の動向」では、関連技術の大まかな動向について説明する。次に第2部「社会経済への影響」では、第1部において説明した技術が与える社会的・経済的影響を様々な角度から調査・分析する。さらに第3部「データ活用社会を支えるインフラの現状と課題」においては、政策立案体制、科学技術（研究開発体制等）、人材、法制度等について諸外国の状況との比較を含めて調査・分析する。最後に第4部「今後の見通し」では、中長期的な視点を踏まえ、データ活用社会の今後の動向について述べる。